

## 【「希望」の税金】

いつからだろう。税金が国民の豊かな暮らしを守ってくれる大切な財源となったのは……。

昨今、コロナ禍や自然災害等未曾有の事態により、形は様々だが、多くの人々が当たり前の生活を失った。しかし、国の多方面からの政策、支援により、多くの人々が救われたことも事実である。その支援の源が国民の税金である事を忘れてはいけない。

僕自身も支援の恩恵を受けた一人だ。コロナの影響で、緊急事態宣言が下され、日常が一変した。国は感染症対策により、特別定額給付金として、一人あたり十万円を給付した。親は、ありがたいと喜び、大切な税金だから、感染症対策に使おうと、空気清浄機を購入した。また、当時は需要が高く、入手困難だった貴重なマスクも全世帯に二枚ずつ配布された。ワクチンができると、無料で接種できた。万一コロナに感染した際は、公費で治療が受けられる。誰もが税金のありがたみを実感しただろう。調べると、子育て世帯や非課税世帯、学生や休業への支援などあらゆる支えが充実していた。突然現れた見えない敵からも手厚く対応できるのは税金のおかげで、心強く感じる。納税額に関わらず公平に支援を受けられる制度にも、支え合いの精神が反映されている日本

の良さだと思う。

日本の税収を調べると、直近は六十五・二兆円だった。想像つかない額だが、一千万円の束の厚さが十cmなので、積み重ねたら、高さ約六百五十二cmになる。富士山どころか、「きぼう」がある国際宇宙ステーションも軽く越えてゆく。支えあう税金が「きぼう」に到達するとは夢があり、税金が国民の「希望」のようにも思えた。

社会の授業で歴史を学んでいると、現在と税の在り方の違いに戸惑う。端的に言うると、土地と人民は全て国家のものでした「公地公民」の方針が根強く、農産物や特産物、労役を税とした年貢の取り立てに長い間苦しんだという印象が強い。国民全体の幸せのためにと、税の目的が大きく変化したのは明治以降だ。昭和になり、戦後の混乱期から復興を目指すにあたり、米国のシャウプ博士から勧告を受け、現在に近い税制度が確立された。その後も税制度は時代に合わせて、国会で議論が繰り返され、今も変化を続けている。国民目線に変化した時代は長い歴史の中で、まだ短いことに驚いた。

税の歴史を振り返り、苦しい時代、変えようと努力した時代を経て、税に守られ、支え合う幸せな時代に僕は生きていくと、改めて実感した。僕達の暮らしのそばでは、いつも税金が動いていて、教育、治安、救急など様々な面で安心した生活が送られる。この環境に感謝し、日本の税制に誇りを持ち、将来は正しい納税者になりたい。そして宇宙の「きぼう」を越える「希望」の税金に貢献したい。